

原発ゼロ・再生エネへの転換の年に！



世界の流れに逆行する安倍首相の 原発輸出政策が総破たん

福島原発事故の苛酷な被害をしり目に、安倍首相は原子力産業界と一体となつて原発輸出のトップセールスを行つてきましたが、米国、ベトナム、台湾、リトアニア、インド、トルコ、英国、全てで撤退・凍結・中止に追い込まれています。福島原発事故後、原発ゼロを求める国内外の世論の高まりと安全対策費の高騰からくるコスト高によるものです。経団連の中西会長（日立製作所会長）の「全員が反対するものを無理やりつくるといふことは、この民主国家ではない」の言葉は原発推進の行き詰まりを象徴。

しかし、追い詰められた推進勢力はあくまでも原発にしがみつき、国内での再稼働・新増設をねらっています。

原発ゼロ 転換へのチャンス！

国民世論は、原発ゼロ・再稼働NO！が多数です。この声をさらに大きくしていきましょう。

また、今年は統一地方選挙と参議院選挙の年です。政治を変えるチャンスです。市民と野党の共同の力で、原発ゼロを掲げる議員が多数になる議会を実現し、再稼働ストップ、原発ゼロ・再生可能エネルギーへの転換を大きく進めましょう。



検証委員会傍聴記

赤い帽子に白いひげのサンタパンがパン屋さんに並んだ12月25日、「第5回新潟県原子力災害時の避難方法に関する検証委員会」が開催された。

13時30分、50席用意された傍聴席はほぼ満席となった。

この日の議事は2つ。そして1つの講演が用意されていた。

はじめに ①事故情報等の伝達体制 ②放射線モニタリング に対して前回の委員会で指摘された点について、県・東電・国（原子力規制庁）の回答があり、東電の説明に対して委員から更に質疑応答が展開された。

◇アクシデントを起こしたら…こうする、問題が起きると…こうするとの体制に思える。

◇先日の地下ケーブル火災でのバタバタ！事故時は大丈夫か？計画を作ったら終り、マニュアル

◇情報伝達システムが機能できていない。（マスクミへのFax18件中2件しか通じていなかった件について、東電が短縮ダイヤルの設定ミスで凡ミスだと説明した時、傍聴席がどよめいた。）…等々。

次に、「あの時、ふくしまで何が起きていたのか」と題して天野和彦

氏（福島大学うつくしまふくしま未来

支援センター特任教授）の講演があった。事故当時の人々の大変な思いや様子、困難をきわめた避難について、衝撃的な映像を示しながらのお話。「災害対応は想像以上に大変で、事前計画はほとんど役に立たなかった」の言葉が印象的だった。

帰りの高速バスの中、あの日50m

3・11福島原発事故から間もなく8年

「福島を忘れない 市民のつどい」のご案内

☆とき 2019年3月9日（土） 13時30分

☆ところ 長岡市立中央図書館 講堂

☆内容 映画会（予定） 詳細は次号でお知らせします。



2月の街頭行動 2月11日（月・休）12:00～13:00 アオーレ前 ご参加を！

原発ゼロ長岡市民ネットニュース

第85号 2019年1月15日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15

電話・FAX 24-2870

佐藤 090-4925-3707